

# 茨城県庁舎等施設長寿命化計画の概要

## ◆計画策定の目的

建物等の修繕等を計画的に実施し、長寿命化を推進するとともに、施設の集約化等により資産総量の適正化を図る。

## ◇計画期間

2021 (R3) ~2034 (R16) (14年間)

## ●施設の現状

(1) 対象建物：延床面積 500 m<sup>2</sup>以上

①行政事務を行う施設  
(庁舎、試験研究機関等)

②県民が利用する施設  
(社会福祉、教育・文化・スポーツ、観光施設等)

(2) 保有状況

- ・建物棟数：221 棟
- ・総延床面積 約 724 千m<sup>2</sup>

(3) 建築後 30 年以上の割合  
(2020 末) 約 3 割以上  
(2028 末) 約 9 割以上

平成以降に整備した大規模建物が建築後 30 年以上経過するため急増

## ●今後の課題

- ・人口減少や少子高齢化の進展
- ・施設の更新等費用が必要
- ・災害活動拠点など新たな役割・機能への対応

## ◇目指すべき方向性

- (1) 県民の安全・安心を守るための防災機能の強化
- (2) 時代の変化に対応した建物性能・機能性の向上

## ◆長寿命化の推進

項目	取組内容
点検・診断等	○定期的な点検及び劣化状況の把握
修繕・改修等	○長期保全計画による計画的な修繕等（予防保全）の実施
更新周期	○目標使用年数「原則 80 年」 ○概ね築 20 年・30 年の時点で予防保全工事等を実施 ・ 20 年（屋上防水・外壁塗装、空調設備） ・ 30 年（受変電設備） ・ 40 年（給排水設備等大規模改修）
建物性能・機能性の向上等	○将来の用途変更への柔軟な対応 等 ○時代の要求水準にあった建物性能・機能性の向上 (防災機能の強化、省エネ設備の導入、ユニバーサルデザインの推進)
対策費用	○14 年間（～2034 (R16)）の維持・更新コスト 2, 200 億円（157 億円/年）→長寿命化対策後：1, 042 億円（74 億円/年）
優先順位	○優先順位を検討し、各年度の財政負担の平準化を図る ・ 建物の老朽化状況（整備年度、耐用年数、劣化状況と業務への影響度） ・ 施設の役割や機能（災害拠点施設等）、集約化等による費用削減効果など

## ◆資産総量の適正化

### (1) 集約化・複合化の検討

項目	取組内容
庁舎	○近隣の合同庁舎や出先機関への集約化を検討
試験研究機関等	○社会情勢の変化や県の役割等を踏まえ、類似施設の集約化等を検討
県民が利用する施設	○役割や利用状況、運営コスト等を踏まえ、存続・統廃合等を検討

### (2) 多様な働き方への対応等

- ・施設の特性、種類に応じた適正面積を検討
- ・市町村・民間事業者等が所有する建物の借り上げ等を検討